

長岡市北越戊辰戦争伝承館

## 人がつながる新組地区

新組コミュニティセンター長 大平与枝行 63歳

新組では今年5月末に「長岡市北越戊辰戦争伝承館」が開館し、開館20日を待たずして入場者が千人を超えました。また、任意の地元団体「長谷川泰を語る会」は昨年伝記マンガを小中学校などに配布し、今年10月頃には福井町に長谷川泰の銅像を建立する計画です。なぜ、新組ではこのような大きなプロジェクトができるのでしょうか。それは、平成12年に6年間かけて地区民の手で「新組郷土誌」を創り、全戸に配布したことに原点があると思います。郷土誌の発刊は、生まれ育った地域の歴史や文化と先人の苦労や偉業など地域の資源を再認識し、新たな発想力と協力（協働）心を育む絶好の機会となりました。

水害の常襲地であり、みんなで協力（協働）して物事に取り組む文化はあったと思いますが、人が繋がって協力（協働）することの素晴らしさを実感しています。これからも積極的に地域の活動に参加し、人の輪を広げて行きたいと考えています。

### II 市民協働 story II

若いときには誰もが地元のしがらみを疎んじて都会にあこがれます。ところが、ふとしたことで地元を振り返ると、地元は今までとは違った色に見えて目を見張ります。地元の先輩がいきいきと活動する輪を覗くうちに、自らも輪を作り始めた恩田さんです。若手の目で新しいことを起こすのも、大平コミュニティセンター長のように、地元の仲間と共にわくわくしながら地域の宝を掘り起こしている先輩が居ることが大きな力になっています。

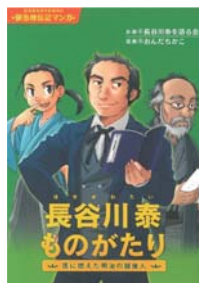
## ふるさどの偉人たちは市民協働の架け橋です

恩田富太 36歳

「御当地伝記マンガ」と銘打った、地元出身の偉人長谷川泰（はせがわたい）の伝記漫画で地域興しを試みています。企画、取材、作画から装丁まで、地域の皆で協力し合った作品だから「御当地」を強調しました。郷土史の詳しい先輩が居て、地域の顔役の先輩が居て、漫画の描ける若い人が居て、世代を飛び越えて皆が小さな特技を出し合えば、小さな町であっても面白い事ができます。また、でき上がった漫画を読んでもくれるのは、主に子どもたちですから、全世代に交流が生まれています。

偉人の足跡をなぞる様に各地へ取材を広げると、またそこでも新しい交流が生まれます。ゆかりの地域同士を横につないで、相乗効果で盛上って行くのも郷土史の面白さです。そして、歴史資料の提供に、助成に、行政からのサポートは欠かせませんでした。僕らから故郷のためにという熱意を見せると、役所も図書館も学校も、それに応えてくれる。市の職員さんも同じ長岡人ですから、僕らと一緒に郷土史に関心をお持ちなんですね。だから俗に言われる「お役所仕事」なんてことは全然無かった！僕は皆さんの仕事を本当に尊敬しています。

長岡は他に類を見ないほどの偉人の宝庫です。そして彼ら自身も、故郷の先人たちに学び成長しました。その偉人たちが子どもたちのプライドになることで、故郷への愛が育まれるように願っています。その一助となる「御当地伝記マンガ」が各地で作られると楽しいですね。



長谷川泰ものがたり

